

市場情報収集解析システムの開発

本 永 文 彦

1. 目的および内容

沖縄県内の漁業協同組合（以後は漁協と称す）では近年OA機器を導入し業務の合理化が進められている。販売業務にオフコンを使用し、煩雑なために敬遠されがちな漁獲量統計も同時に作成している。そのため、各漁協で作成する販売データが保存されたFD（フロッピーディスク）を収集することができれば、漁法別・魚種別漁獲量などの資料が容易に作成でき、漁業動向の現状把握が迅速に行えるようになる。そこで、こうした市場情報（市場仕切書）をパソコンで集計、解析する方法を検討する。

これまでに、市場仕切書入力に必要な漁業種類と魚種コードを作成し、新規にオフコンを導入する漁協に利用してもらっている。オフコン利用の漁協が増える中で、1989年1月から市場情報（FDデータ）の収集を始めた。現在、こうして集められた漁獲資料を迅速に解析するシステムの開発を進めており、本報ではその作業の経過を述べる。

なお、漁協職員の方々には資料の収集、作成に多くの協力をいただいた。今回進めている市場情報収集解析システムの開発は、これらの方々との協力なしでは行えないものである。厚くお礼申し上げますとともに今後とも助力をお願いしたい。

2. 作業の経過

①FDの収集と保存

得られた漁協のオフコンデータはパソコンで利用可能なファイルに変換し、光磁気ディスクへ保存した。また、漁協により使用するコード番号の異なる魚種や漁法のコードは、共通のコードへ変換した。1989年より本業務を実施しており、現在22漁協のデータが蓄積されている。

②データの利用状況

得られたデータはその都度各種研究業務に利用されている。1ヶ月毎に利用する事業として、漁況海況予報事業と200カイリ水域内漁業資源総合開発調査がある。また報告書作成時に、栽培漁業技術開発事業（ハマフエフキ、タイワンガザミ）、マングローブ林の水産資源維持培養の効果に関する研究、名蔵湾保護水面管理事業などの事業で利用されている。

③今後の課題

データはパソコンで利用可能なテキストファイルとして保存されている。今後、永年のデータが蓄積されてくると、単純な漁獲量統計の作成だけでなく、複数の年度や地域、特定の魚種など目的に応じたデータの検索・抽出・集計が行われると思われる。そのため操作が簡単なデータベースの他にも、各種の表や図を作成する機能をもったビジネスソフトを今後利用する予定である。